


地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム内の範囲でその人らしい暮らしを支える為の理念はあるが、グループホームが地域密着型サービスとなる以前の理念のため地域の中で暮らすという観点の理念ではない。	○ 地域密着型サービスとして新しく理念を作り直す必要がある。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をフロアに掲示してあり、その内容に沿ったサービスに取り組んでいると思うが、意識としての理念の共有や取り組みはしていない。	○ 話し合いの場を持つなどしてスタッフ各々が理念についての意識をつける必要がある。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域運営推進会議の場で事業所の現状報告をする機会はあるが、理念については触れていない。	○ 話し合いの場を持つなどして事業所が積極的に伝えていく必要がある。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な付き合いにはなっていないが、例えば町会の祭の際、近隣の人に声を掛けていただくなど、何かの機会に会話ができる程度の関係性がある。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会の祭や御神輿見物には毎年参加しているが他の行事や活動などには参加していない。	○ 地元の人々と交流できる場に数多く参加する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所内の高齢者が地域とのかかわりを持つ為の話し合いはあるが、地域の高齢者への貢献ができるような人員体制、介護力が無く不可能な現状と思われる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的に事業所の現状をとらえられる機会として理解し、具体的な評価内容は職員間で共有し改善に役立てる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告はしており、意見は活かそうと意識しているが、市職員からの意見が多く、地域の代表の方や家族からの意見は少ない傾向がある。	○	ご家族や地域の人にもっと事業所の事を理解していただけるよう事業所側の努力が必要。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員レベルでは行っていない。左記取り組みの状況について情報が無い為不明。	○	事業所内での取り組みについてもっと広く情報の共有をする。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は職員の自主性に任されている。制度利用については家族からの申し出によるものが多く、手続きや関係者との話し合いは家族主体でしていただいている。	○	制度の理解をする事により、職員が制度利用の必要性に気づくことができるようにする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会をつくり学ぶ機会があり、知識を共有し、その中で気付いた事については注意している。	○	知識を深め徹底して廃止するような本格的な取り組みが必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は運営者・管理者が行っており、不明。フロアレベルでは入居前の実態調査時や入居後随時行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所内で特に機会は設けていない。家族や職員に話された意見についてはその都度共有し、サービス向上に反映させるよう取り組んでいる。</p>	<p>○ フロアレベルではなく、事業所レベルで機会を設ける事により、利用者が意見やクレーム等を表しやすいと思う。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時や月1回の手紙にて定期的に報告を行い、利用者の体調や金銭管理その他必要に応じて個々に合わせ報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>フロアレベルではケアプランの説明の際、毎回伺っており、意見は共有し、サービス向上に役立っている。</p>	<p>○ フロアレベルではなく、事業所レベルで機会を設ける事により、家族等が意見やクレーム等を表しやすいと思う。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>特に機会を設けていない。</p>	<p>○ 運営者に機会をもってもらえるよう働きかけている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>各フロアで調整できない部分に関しては、フロア間で話し合い調整を行っている。柔軟な対応ができるまでの人員が整っておらず、変化・要望があった際は常勤職員が時間外で対応する事が殆どである。</p>	<p>○ 職員の人員確保が最優先と思われる。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の人員不足の中、利用者へのダメージにまで配慮した異動はできず、異動や離職を抑えるような運営者の積極的な働きかけも無い。</p>	<p>○ 職員の意見を運営者が知る機会が必要。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が左記取り組みをしているかの情報が無く不明。職員の人員不足により積極的な育成は困難な状況。	○	運営者の取り組みを知り、実際に働きながらトレーニングでできるような状況を目指すべきである。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記同様	○	運営者が人員不足等の問題を解決した上で取り組むべきと思われる。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者との直接的な関わりが管理者以外の職員には無く、左記目的での取り組みをしているか不明。	○	運営者に職員面接という形で職員の不安や不満を聴く機会を持ってもらえるよう働きかけていく。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上記同様	○	上記同様、職員一人一人と面接したり現場を見たりすることで把握していくべきだと思われる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の対応は本社で行われ利用者本人及び家族の意向の情報がまとめられその後、管理者による実態調査で具体的に聴くことにより利用者の求める事などを把握する努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様、相談は家族からである事がほとんどのため、初期に家族の意向等については利用者本人より聴く機会が多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の対応は本社が行っているため、詳細は不明だが、本社でまとめられた情報により必要とされる支援は読み取る事ができる。他のサービス利用を含めた対応はしていない。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて入居前にショートステイができたり、入居後は必要最小限の支援を行いつつまず環境に慣れていただくことを目的に、本人のペースや動向・精神状態などを観察していく。入居時の対応については家族とよく相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意とすることは依頼という形でやっていただいたり、人生の先輩として敬う事を基本とし左記の通りの関係を築く努力をしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーションへの参加や受診の付き添い等の際は職員と協力したり分担したりしていただいたり、面会時に等に家族の現状をお話いただいたりしつつお互いに労をねぎらうような関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前にそれまでの状況や関係の情報を家族から得て、事情の理解をし、生活していく中で本人が家族に思っていることを家族に伝えたり、本人・家族で外出していただく際にはホームで気付いた留意点があれば必ず伝えている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た人への声掛けや本人と職員が馴染みの人や場所についての思い出話をする事での支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	把握をした上で、関係性に配慮した座席や個別レクリエーションメンバーの組み合わせをし、関係性が保てるように観察・必要時職員が介入している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	積極的には行っていないが、利用者や家族側から要望があった際には受け入れている。	○	年賀状を出すとかレクリエーションへの参加のお知らせを出すなど事業所側の積極的な関わりが必要とされる。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努めた上で、ホームだけで対応できない際は、家族への要請や、外部の社会資源などの利用を検討するなど介護力の確保をする事により本人の意思に添えるよう努めている。	○	入居者の意向より職員の業務の方が優先になってしまう事も多々あり、業務の縮小に取り組み始めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に書面にて家族から情報を得たり、本人・家族と話をしていく中で随時把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察の中で努力できていると思う。変化が見られた際には必要性に応じてアセスメント、介護者同士での話し合いの場を持つなどし、気付いた事などを共有し多角的な視野で本人を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に数名のスタッフが計画を立てている。家族・医療関係者の意見は反映しやすいが本人の意向と必要な支援にズレがあることもあり、本人と左記内容について話し合うことはあまりない。	○	不安を感じさせる事なく、本人の課題や支援のあり方について本人とも話し合える介入の方法を探す事が必要。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた作成はしているが、その間の変化により新たな計画を作成することはできていない。本人・家族・必要な関係者との話し合いの場を作るのにも時間がかかったり、ある程度観察する期間を要する為定期的な見直し時に反映させている現状。	○	的確に状況を把握したり、関係者へ話し合いの必要性を話すことについて、素早い判断が必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入、1ヶ月毎のサマリーへのまとめ、会議の場での共有をし、ケア内容を変更・統一したり介護計画見直し時に内容を反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は多機能とはいえず、あくまでグループホームの範囲内で対応している。ショートステイ、受け入れ可だが、現状としては受け入れをしていない。	○	機能していないショートステイ受け入れについては人員配置の工夫や体制を整える必要がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要最小限行えていると思う(運営推進会議への民生委員の参加・消防訓練への消防隊員の参加・地域学校の職業体験受け入れ)が、協働しているという段階ではない。	○	職員の人員体制を整えた上で外部ボランティアの受け入れを検討中。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者レベルで地域の他事業者と話し合いを持つ場があると聞いたことはあるが、左記内容にて機能はしていない。	○	必要時対応がスムーズにできるよう、他事業者との関係づくり、情報交換をしておく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	職員レベルでは関わりがなく不明。	○	上記同様
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が頼りに思っているかかりつけ医の往診をして頂き、職員が本人・家族の代弁者となりかかりつけ医にこまめな報告・相談しながら対応できている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との関係はなく、受診の必要性は職員がかかりつけ医や家族に説明する形である。かかりつけ医によっては専門医ではないが認知症に詳しく、相談に乗っていただいている。	○	認知症専門医との関係づくりや著しい認知症があっても受け入れてもらえる入院施設のある病院を見つけておくことが必要。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所内の看護職員、かかりつけ医の看護師長・保健師に入居者の把握をしてもらっている為、入居者について介護に活かせる看護の技術を教わりながら支援に役立っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後直ぐにサマリーを渡し、認知力の程度や身体状況などについて情報提供する。必要時病院でのカンファレンスに参加したり、見舞いに行く中で、入院中の状態や退院の目途について情報を得、退院可能となった場合にはできるだけ早い日程で退院していただいている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	左記の様に話し合いはしているが、職員・家族とも「なってみないとわからない」と現実感なく、曖昧な把握になっている。	○	重度化・終末期についての経験・知識のある管理者が中心となって取り組み中。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記同様	○	上記同様
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	フロアによってはグループホームから別の居所へ移り住んだ方がいるが、その際は左記の通りの対応をしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の前で問題行動などについて話をする場合は、インシヤルを用いたり、違う場所です。自尊心を尊重した対応を職員に意識付けるため定期的に話をする、個人情報は基本的に持ち出さないことをしている。</p>	<p>○</p> <p>意識して対応し続けられるよう常にチェックし、徹底できていない場合は都度指摘している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>紙に書く、直前に声を掛ける等、一人一人に合わせて事前の説明を行い、自分で決めかねる場合は選択肢を提供する。拒否がある場合は無理強いせず、時間をおく等入居者本位にできるよう努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>左記の様に対応しているが、複数の入居者が同時に様々な活動をしている際に職員の人数や業務の都合などにより希望に添えない場合がある。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望される方にはスタッフが洋服を購入しに行ったり、家族にその人らしい洋服を購入していただいている。行事の際は化粧をしたり、理容については2～3ヵ月に一回出張美容を頼み本人の希望を伝えるなどしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居前に予め好物や苦手な物を情報収集しており、メニューに反映させることがある。食事の際は、職員が見守り、必要に応じて声掛けを行っている。準備・片付けについては特定の入居者が参加している。</p>	<p>○</p> <p>高齢になるにつれ、食事の準備・片付けに疲労感を覚えたり、認知力低下により単純な作業でもできなくなった方が複数おり、職員のみで行うことも多いため、準備・片付けについて時間短縮できる工夫が必要。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>スタッフが都度提供・確認し、古くなった物や危険が伴う際には目を離さず、交換・回収している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>定時のトイレ誘導と排泄チェックにより、パターンの把握・清潔保持に努めている。排泄面で自立していても失敗が増えている方についてはセンサー等を使用し排泄時に汚染有無が分かるような工夫を始めている。</p>	○	<p>定時のトイレ誘導や排泄の行動が自立している方の排泄時のチェックを行っていても、失禁が多くオムツ使用はむしろ増えている状況。オムツ使用を減らす視点での排泄介助が必要。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>前回入浴日や体調と照らし合わせつつ、ある程度職員が決めて声掛けにより入浴していただいているが、希望がある際は入居者の意思を優先し、それぞれの方のペースを把握しつつ安全な入浴を心がけている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>眠れない場合は日勤者に申し送り、日中の活動中も注意して観察をする。不眠が続く場合には医師に相談し、入眠剤等の服用をしていただくなどしている。予め生活習慣は本人・家族より情報収集し、眠りの様子はある程度把握している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>左記内容に対して、予め本人・家族より情報収集し、それぞれの入居者に合わせて支援しているが、入居者の状況、職員の人員の問題などにより、十分な支援はできていない。</p>	○	<p>職員の人員不足、業務量についての見直しを行い、取り組みのできる時間を作る必要がある。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>その人の認知力により所持可能か不可能かの判断をし、希望があっても紛失・被害妄想発生を防止する為、所持していただかない事がある。事務所にてご本人のお金を預かっている旨は伝えている。</p>	○	<p>所持していなくても「自分できちんと支払いをしている」と思えるような支援の工夫が必要。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>職員の人員不足の関係で現在はほとんど対応できていない。特定の入居者が買い物同行をしている程度。</p>	○	<p>職員の人員不足の解消・介護力の増強(家族やフロア間の協力等)が必要。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>左記の通り対応しているが、職員の人員の問題で十分にはできていない状況。</p>	○	<p>上記同様</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族側の都合も聞き取った上で不都合がない場合にはある程度対応している。	○	手紙のやり取りについては、希望される方がいないが職員側の声掛けにより行うことで関係づくりの支援ができる可能性がある。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にお茶を出したり、入居者の近況を伝えたり、入居者と面会者の関係性に合わせた介入をし、来訪時、お帰りの際必ず声掛け入居者一緒に玄関まで見送りに行くなどしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で話し合われた当事者が該当する内容について理解できているが、職員全員が介護保険法に定められている内容を知っているわけではない。	○	職員一人一人が法律の理解をすることが必要。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害について理解はしているが、建物の構造上や人員の問題により鍵を掛けざるを得ない状況(玄関・フロア出入口に関して)である。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	左記の通り取り組んでいるが、見守りの必要性和本人の意識が比例していない部分もあり、困難な場合はセンサー使用等道具を使つての把握をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室内については、一人一人の状態に応じて、危険を取り除くようにしているが、共有スペースに関しては、整理しきれず、時折特定の方の異食行為がある。薬品類に関しては、目の届かないところに片付けてある。	○	見守りの強化と共有スペースの物品の整理をする。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	知識を学ぶのは職員の自主性に任せてある状況。事態が起こってから反省を基に取り組んでいる。火災については消防訓練があるが、一人一人の状態に応じての想定をするには到っていない。	○	知識を学ぶ事と危機感を持ってあらゆる危険性を想定し、一人一人に合った自己防止策を具体的にすることが必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所内で訓練を行っているのは消防訓練のみ。	○	事態に備えて、左記事項の通り取り組み始める必要がある。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	担当の公共機関からの情報収集はある程度なされているが、具体的な避難方法や地域の人々への働きかけをするまでには到っていない。	○	上記同様
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	主に医療面や転倒のリスクなどについては説明しているが、どこまで見守りができて、どこからできないかという明確な線引きができていない。	○	1つ1つのリスクについて、明確な線引きを基に説明を行う必要がある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り以外でも入居者の体調変化や異変が少しでも気になった際は情報を共有し、管理者、家族・医療関係者などの連携をとり、対応が速やかに行えるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から伝えられた注意点に関しては周知し、指示のもと服薬支援を行っているが、すべての薬について全職員が把握しているわけではない。	○	入居者の身体状況の観察の目安をつくる1つとして服薬内容を職員全員が把握しておく必要がある。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質を多く含む食材や粉末の利用、水分摂取量が足りない人については、ゼリー状にしたり、こまめに水分提供したりしている。身体を動かすことについては入居者の自発的な活動に頼っている。	○	散歩・体操など職員から活動の機会を提供する必要がある。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	日常生活全般に介助が必要な方に関しては行えているが、自分で行える方に関しては不十分。歯科受診にて必要性が判明した場合、指示のもと支援を行っている。	○	定期的に歯科往診などで口腔内衛生の把握をし、一人一人に適切な支援ができるようにすることが必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く摂取できるよう声掛け・介助を行い、摂取しやすい固形・水分の形状を変えたりしながら食事・水分チェックを行い、必要時医師に相談し、栄養補助飲料なども併せて摂取していただいている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルはあるが、開設当初に作成されたもので、情報が古いものもあり、使用していない。	○	取り決めを作り直し、実行する事が必要。業務改善係の見直し案件となっている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夕食後にまな板や流し部分の備品を消毒、毎食後に布巾の漂白をし、時間があるときにその他箇所を整理したり拭くなどしている。買い物時は賞味・消費期限に注意して、新鮮な状態を保てるよう保管している。	○	食事担当係を立て、定期的な清掃・物品の交換など左記以外にも取り組み中。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関外は園芸ボランティアの方により絶えず花が咲いており、玄関内も清掃スタッフによって清潔に保たれている。外部者訪問の際には必ず出迎えるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所側では、不快な音や光がないよう配慮しているが、隣接マンション工事開始後からクレームあり。事業所内は季節ごとに装飾を変えたりして、入居者に喜ばれている。	○	隣接マンション工事について、問題点は管理者が工事担当者に都度話をしている。ベランダのプランターに花を植えていたが、現在は手付かずになっている為利用していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの数箇所にソファを置き、複数のグループや個人が各々過ごす事が可能になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた家具を持ち込んだり、入居後本人から聞き取った内容から趣味の物を部屋に置くなどしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝や排泄介助後、調理中などの換気をし、入居者の居室は主に空調利用により温度・湿度管理に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や、家具の配置により、移動時の安全確保に努めている。	○	入居者の高齢化と共に身体機能も変化してきており、手すりの設置、段差の解消などについて検討する必要がある。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には名前を書いた表札をつけたり、暖簾等で個別性を図り、他者の部屋と区別できるように工夫している。一人一人に合わせて居室内に物を配置している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	植物を置く事で水撒きや手入れができるようにしている。玄関先にはベンチを設置し、魚の飼育を始め、えさやりができるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者の
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	毎日ある
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	たまにある
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
		<input type="radio"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
		<input type="radio"/>	少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	あまり増えていない
		<input type="radio"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

統括ホーム長を中心に各スタッフが分担して業務を明確に整理し、ケアの質を高める事に取り組んでいる。